

三中校長だより 保護者地域の皆さんへ  
令和7年度 第12号 R8.3.17 (火)



藤井寺市立第三中学校  
校長 奥 雅 美

### 卒業式 — 感動を胸に、新たな門出

3月13日(金)、3年生が皆さんの温かな拍手に包まれ、本校を巣立っていきました。

まさに「三中生」らしい、活発でエネルギーに満ちあふれた学年でした。卒業式当日、会場に響き渡った素晴らしい歌声は、私たちの心に深く刻まれるものとなりました。

ご多用の中、ご参列いただきましたご来賓の皆さま、そして保護者の皆さま、これまでの本校教育へのご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

### 次の主役へ — バトンを受け継いで

3年生が卒業し、いよいよ1・2年生が第三中学校をリードしていく立場となりました。

2年生は3月4日(水)、市内の私立高校へ見学・体験に足を運びました。実際に目で見て肌で感じることで、進路選択がより現実味を帯びてきたようです。卒業生たちからのアドバイスを胸に、自分自身の未来に向けて着実に準備を整えていくことを期待しています。

現在、各学年では1年間の締めくくりとして、スポーツ大会やお楽しみ行事の企画が進んでいます。

特に体育の授業で取り組んでいる「ダンス」は、今やこの時期の風物詩です。授業中以外にも、校内のいたるところでリズムに乗って練習している姿が見られ、学校中が活気に満ちています。

3月23日(月)には各学年のダンス発表会が開催されます。生徒たちが自分たちで作上げたダンスがどのような表現になるのか、今から非常に楽しみです。

### コミュニケーションの難しさと、

#### 一歩踏み出す力

「コミュニケーションは大方、勘違いです」

ある心理学の専門家はそう仰いました。人の気持ちは目に見えません。言葉を尽くしたとしても、自分の思いを100%そのまま相手に受け

取ってもらうことは、実は非常に難しいことなのです。だからこそ私たちは、自分の心を表現する際、相手の気持ちを想像し、歩み寄り努力を続けます。

### ◆現代の中学生が直面する「負の連鎖」

現在、中学生の間では、人間関係のトラブルを自力で解決することが難しくなっています。典型的なのは、次のようなケースです。

Aさん: 仲の良いBさんの言動に傷つくが、「嫌だ」と言えず我慢してしまう。限界が来て距離を置くが、その理由は伝えられない。

Bさん: 理由が分からないまま避けられ、「仲間外れにされた」と感じてしまう。

Aさんが「伝えても無駄」「怒らせるのが怖い」と諦めてしまう一方で、Bさんは「自分の行動が周囲に与える影響」に気づけていない。このズレが、SNSやメッセージアプリなど大人の見えない場所で、深刻な状況までこじれてしまうことが多々あります。

### ◆「介入」から「トレーニング」へ

もちろん、生徒たちが困ったとき、私たち大人が介入して解決を図ることは必要です。しかし、中学校生活は社会に出るための「練習の場」でもあります。

本来、仲間とのトラブルを自力で乗り越える経験を積ませることは、学校や家庭の大切な役割です。大人が先回りして答えを出すのではなく、生徒自身が「どう伝えればよかったか」「相手はどう感じていたか」を考えられるよう、粘り強くアドバイスし、見守ることが求められています。

### ◆家庭と学校の連携

お子様が人間関係で悩んでいるとき、つい「大人が解決してあげたい」という気持ちになるかもしれません。しかし、そこをぐっと堪え、解決方法を一緒に考える「伴走者」であっていただければと思います。

困ったときは、ぜひ学校にご相談ください。ご家庭と学校が手を取り合い、生徒たちが自らの力でより良い人間関係を築いていけるよう、共に支えていきましょう。